

「２０１７函館マラソン」準備状況

～ はじめに ～

函館マラソン事務局です。

皆様、来年７月２日（日）に、「２０１７函館マラソン」開催の運びとなりました。

函館マラソン実行委員会では、現在、様々な関係先の皆様と協議や調整、お願い、さらに知略、謀略…いえいえ…要するに各種「工作活動」を、持てるパワーの全てをもって展開しているところです。

各種工作活動の方向性は…先の「函館マラソン開催状況」でも明らかにしてきた多くの問題や課題について、それらを

- ・放置せず、もちろん確実に「潰す」こと
 - ・単なる改善にとどまらず、よしんば更なる魅力も付加してしまうこと
 - ・残念ながら次回の開催段階で改善が叶わないものについてはその理由を明らかにし、さらに長期的な改善の方向性を示すこと　そのうえで、
 - ・「日本一のマラソン」となるよう、そのあるべき姿の一端でも確実に掴み前進すること
- そのような勢いで、函館マラソンを貪欲に磨いてまいります。

また、そうした経過を事務局からのお知らせとして（実は観測気球として？）、この場を活用し、いつもながらのスタイルで恐縮とは存じますが公表できるものに限定して順にお知らせしてまいりたいと考えております。

ただし、一度決定してお知らせした案件でも良いものはどんどん取り入れ改変してまいります。したがって時間の経過とともに状況は動的に変化していくこともありえますが、最終的には年をまたいだ来年１月開催の実行委員会総会において「実施要項」を確定し、そのうえで皆様には「２０１７函館マラソン」参加のご案内をさせていただきます。

これからの時期、全国的にマラソンシーズンのピーク到来となりますが、レース本番や普段の練習の「脚休め」として、この場をまったりと眺めていていただきたいと思う一方で、ご覧いただくうちにあやしい煙に包まれて、来年２月頃には何となくランネットの申し込みボタンをポチッと押してしまうような、いや、押さなければ何だか気がおさまらないわ…となってしまうような、そのような場となるよう、書き手の方も精魂込めてお伝えしてまいります。

ということで「２０１７函館マラソン」準備状況、スタートいたします。

～ 第1回 大会のコンセプトは？（その1） ～

既に大会を開催しておいて、いまさら「大会のコンセプトは？」などと口にするのも憚られますが、それを承知のうえで申し上げますと…。

このたびの函館マラソンの開催時のこと、あれはたしか事前受付の初日（6月24日金曜日）のことだったと思いますが、18時の受付開始を最前列で待っておられたご夫妻から私、話しかけられたのでありました。

「函館マラソンのコンセプトって、ちょっとわかりにくいよね」

「えっ？」と、たじろぐ私に対し、「ファンランにしては参加資格が5時間と、かなり短い」、「かといって競技志向が強いのかといえば、エイドステーションでは地元の食がふんだんに提供されたり」とのことでありました。要するに「どっちなんだ？」と。

この方、スルドイ。それに何だかウチらのマラソンに詳しいし。訊くと全国各地のマラソンを「転戦」されている強者だったのでありました。「函館マラソン準備状況」も熟読されたとのこと。

その際の私からの返答は…核心を突かれ、しどろもどろで内容を覚えていません。

函館マラソンの制限時間は5時間20分、ただし参加資格は5時間です。この差異は、

①号砲から最後尾のランナーがスタートラインを切るまでの間を8分と設定し（※実際は6分13秒でした）、そこに誤差を見込んでまずは10分を設定

②フル・ハーフ同時スタートであり、かつ、スタートから5km付近までの間はコースが狭隘であり、自分のペースで走りにくいので10分を設定

という想定のもと、①と②で合計20分を関門不通過のリスクとして制限時間から減じたものだったのであります。

で、その5時間マラソンというものを相対的に見るとどうでしょう。東京マラソンや大阪マラソンなどの人気のあるマンモスマラソンは7時間設定です。即ち5時間マラソンは、外形的には「競技性が高い」、「厳しい」マラソンなのでありました。

ではなぜ我が国有数の観光都市である函館で開催されるマラソンが5時間なんだ？

その答えは…実績ですね。（つづく）

～ 第2回 大会のコンセプトは？（その2） ～

いや～初回から前振りが長かったですね…ってか、まだその前振りが終わってないんですけどね。

で「実績」。それがあれば誰も苦労はしません。これまでお伝えしてきた「準備状況」や「開催状況」でも何度も書き連ねてまいりましたが、函館は「扇形」の独特な市街地形状を呈しており、そこの外縁部などをマラソンコースとして設定するということは、扇の一番細い要の部分（※そこに私の職場があります）がボトルネックになり、大規模な交通渋滞の発生も危惧される状況なのでありました。

様々講じた交通対策は奏功したのか破綻したのか？その判断基準が開催「実績」です。

従って、開催実績を有しない状況で制限時間を検討するとき、仮に大規模な交通渋滞が発生した場合にあってもそれを最小限に留めるためには、マラソンで市街地を占有する時間を限りなく短くする…というのが方向性としては正しく、それが「公共の福祉」に叶うということになりますね。

「何言ってるんだ東京マラソンは7時間だよ制限時間。首都圏で開催できるのに、なんで田舎の函館でそれができないんだ？」…と、そのような声が聞こえてきそうですが、東京マラソンの事業費は20数億円。大会事務局は種々苦心されていることは存じますが、投入できる対策費の規模が違います。また、大都市は代替となる交通手段としてバイパスや高速道路網、さらには各種電車網が確立しています。

そうした環境にない函館は、ではずっと5時間のスタイルを通すのか？

第1回の開催を通じて致命的な交通渋滞の発生が確認できなかったこと。これが「実績」です。実績を今後も重ねていくことで、市民理解を得ながら「競技」と「ファンラン」のミスマッチを解消してまいりたい、即ち、もう少し制限時間を長くできれば…と思っております。

あ、「ミスマッチ」と書いてしまいましたが…正直に申し上げると、長く観光部門に居た私としては、函館マラソンを集客交流装置としてより多くの方の参加を促したい（※公共セクションがマラソンに少なからぬ補助金を投入する意味は、そこにあります）、できれば1万人を超えるような。また、女性の参加率も上げて華々しくしたい、といった感情が根っこにありますので、現状は、その意味でミスマッチ状態にあると考えています。だから前回書いた強者ランナーさんからの質問にしどろもどろになったのでしょう。何せ根が正直者ですから。（あっ！もう最終行だし…またまたつづく）

～ 第3回 大会のコンセプトは？（その3） ～

ホント長いですね、我ながら呆れてしまいます。色々書きたいことはあるのですが、まあ物事には限度というものがありますのでこの回でまとめてみせましょう！

さて、参加者アンケートなどの結果をみると、大森浜の「漁火通」では参加者の皆が強い向かい風に曝されたこと、またフルの部参加者からは「特に後半、あの『ともえ大橋』が厳しかった」、「でもクセになりそう」など様々な反応をいただいておりますが、総じて「きつついコース」だという評価が多いのは否めません。また、「狭い」というご指摘も把握しております。

「あの日」の函館マラソンを、函館ゆかりの歌人 石川啄木になりきって詠んでみると「潮かぶる北の浜辺の 砂嚙ますかの浜風よ 今年も吹けるや」(※)といった状況でしたね（わかりにくいですか？わかりにくいですね…）。

それはさておき…ではコース変更は可能なのか？

これも何度も書いておりますが、現状では難しい状況にあります（何しろ今のコースを設定するのに25年かかってますので…）。ただし、そこで思考停止するのではなく、新設道路の整備など今後の交通環境の変化などを見据えながら、「あるべき姿」を長期的に探求してまいります。また、「狭い」を改善すべく種々の取り組みも推進中です。

では制限時間だけでも延長できないのか？

はい、現在調整中です。実は予定していた時刻に交通規制を解除できなかった場面などもあって、関係機関との協議も「このままで果たして住民理解が得られるのか？」ということがポイントになっています。要するに先述した「実績」が少し足りない。

この辺で話をまとめますね。コンセプトを左右する「コース」自体はなかなか変えられませんが、「制限時間」については調整中であると。ただし、いきなりの6時間化というのは厳しい状況です。

これらを踏まえ、第1回大会の募集前に、当webサイトでは函館マラソンの特徴を、
・記録を狙うならハーフ
・景観を楽しむならフル
とお伝えしておりましたが、次回に向けてコンセプトをわかりやすく設定いたします。

函館マラソン「コンセプト」

- ・ハーフは、記録を狙う高速マラソン
- ・フルは、日本一過酷なファンラン

※参考：石川啄木「一握の砂」：潮かをる北の浜辺の 砂山のかのはまなすよ 今年も咲けるや
（函館の大森浜などの情景が詠まれています。函館マラソンのコースでもあります）

～ 第4回 （発表済みですが…）開催日程について

「函館ハーフマラソン」は、開催日程を9月の下旬に固定したうえで長く続けてまいりましたが、このたびのフルマラソン同時開催を討議する過程で、初夏の時期に開催した方が、北海道合宿前の競技者層を取り込める可能性が高いことから、2015年大会をもって開催日程を前倒しした経過があります。

この日程変更により、招待選手や実業団・学連登録選手など所謂「エリートランナー」の人数は、秋季開催の2014年が14人であったのに比して、開催時期を初夏に変更した15年は49名、そして今年は137名と、目論見どおり大幅に増加しました。

一方、変更後のその時期は高校野球の地区予選の開催シーズンなのでもありました。

実は函館マラソン開催のため、昨年と今年は、甲子園をかけた大切な地区予選の、それも決勝日程を当方の都合にあわせて変更していただきました。参加記念品の引き渡ししが18時スタートと遅い時間になってしまったのは、高校野球の試合終了後にランナーの皆様にお集まりいただくことで、駐車場不足など現場の混乱を抑制するため措置です。

ただ、いつまでも高校球児にご面倒をおかけするわけにはいきません。

また、マラソンの開催時期がフラフラするのは、年間スケジュールを組み立てて行動される皆様にご不便をかけてしまいますし、ご家族ご友人も含め宿泊ベースで数千人レベルの大規模イベントの開催は、その時期に函館訪問を予定されているお客様はもとより、観光関連業界の皆さんにとっても重要な情報となります。

そこで、大会日程を7月第1日曜日として設定することといたしました。今後は「函館マラソン」が続く限り、また、大きな支障がない限り、毎年7月1日から7日までの間の最初の日曜日の開催としたいと考えております。

1週間の後送りで、より真夏に近いシーズンの開催となってしまいますが、医療・救護面にはこれまでと同様に万全を期して対応いたしますので、参加される皆様におかれましては「その日」が今回のような「東海の小島の磯の白砂に われ泣きぬれて 風とたはむる」(※)といった厳しい状況ではなく、初夏の爽やかな天候となるようご祈念いただきたく、よろしくお願いいたします。

ということで、来年2017年開催の第2回大会は7月2日（日）の開催となります。

※参考：石川啄木「一握の砂」：東海の小島の磯の白砂に われ泣き濡れて 蟹とたはむる
(ヒネリが少なくして申し訳ないです…こちらも函館の大森浜などの情景が詠まれています。)

～ 第5回 制限時間が延長できたとして、それをどこに配分するか？（その1）～

今回は制限時間のお話です。

函館マラソンの制限時間の延長に関する検討状況については、この散文の第3回「大会コンセプトは？（その3）」でお伝えしておりましたが、現状の5時間20分について、仮に40分間の延長が「叶った」場合、即ち6時間マラソン化が実現すれば、今回ご参加いただいたランナーの皆様にとっては、その分だけ「余裕」ができて、エイドステーションでの盛りだくさんの特産品なども存分にお楽しみいただけるものと考えております（ただし、ご自身の記録更新という部分についてはさておいて…）。

また、第1回大会の参加資格＝5時間は、所謂「走れる」ランナーを対象とする大会であり、その「5時間の壁」を越えられないランナーにとっては足が遠のいてしまう大会であったものが、いきなり（制限時間ベースではありますが）6時間マラソンとなると、そのインパクトは、こと参加意欲の喚起という面では計り知れないものがあります。

一方、今回の函館マラソンのフルの部の完走率は91%と、当日あれだけの荒天に見舞われながら関門不通過の方が少なかったのは、その「走れる」ランナーが強い気持ち、即ち「DNFという字を百あまり 宙に書き 止むことをやめてゴール来れり」（※）的な心情で走破したことも、考察上の大きな要素となります（だんだん意味がわからなくなってきました…それにもうネタ切れです）。

もう一つ、忘れてならない視点があります。それはスタート時の混雑。

混雑緩和の手法としては、種目別に時間差でスタートする方法や「つくばマラソン」のようにウェーブスタート（※例：10分間隔で3回に分けてスタート）を導入することも手法としてはありえます。

ただし、そうしたスタート方法を導入するための「源泉」は、さまざまな検討を経て最終的には函館市民から頂戴する「延長が叶った時間」なのであります。

よって、まずはその「延長が叶った時間」が40分なのか20分なのか？あるいは10分なのか、はたまた「実績」不足ゆえゼロとなるのか…各種の協議を経てそれを確定し、そのうえでそれを制限時間の延長に振り分けるのか、スタート時の混雑緩和策に利用するのか？はたまた〇分はスタート方法の変更に利用し、〇分は制限時間（参加資格）の延長に利用する…といった選択が必要となるものと考えております。

1回分の分量では収まりませんね。（つづく）

※参考：石川啄木「一握の砂」：大という字を百あまり 砂に書き 死ぬことをやめて帰り来れり
（DNF：Do Not Finish の略。途中棄権）

～ 第6回 制限時間が延長できたとして、それをどこに配分するか？（その2）～

函館マラソンの、とりわけフルのコースは特徴的ですよね。なにせ5箇所も折返しがあったり最終局面である「ともえ大橋」が皆様をお待ちしている訳ですから。ただ、一番の特色といえば、同時スタートしたフルとハーフが8.4km地点で分離し、フルはそこから9km以上も遠回りした後、再度ハーフと合流するという点でしょうか。

このような変則的コースで種目別分離スタートやウェーブスタートを導入した場合のメリットとデメリットを考察してみました。そもそも導入できるか？そして函館マラソンにとって効果的なスタート方法とは？

繰り返しになりますが、スタートには大きく2つの方式が可能であると考えています。
A：一つはフルとハーフのスタート時刻を分ける種目別分離スタート と、もう一つは
B：種目が混在したままブロック毎にスタート時刻を分けるウェーブスタート です。

A方式は、フル・ハーフ・10kmなど複数種目が催行される大会の場合、一般的にこの手法が採用されます。一方、B方式は、ウェーブスタート自体が我が国において導入事例が少ない中（※代表例：つくばマラソン）、種目が混在した状態での導入事例については、当方では把握しておりません。

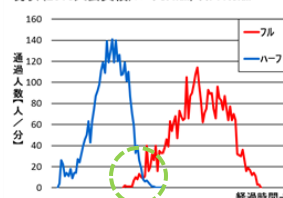
A方式（種目別分離スタート）の考察

では、A方式から考察してみます。函館マラソンは、上述のとおり8.4km地点にフルとハーフの合流ポイントが存在することから、①仮にフルを10分先にスタートさせた場合、合流ポイントでは今回以上の人数が「交錯」することとなり、そこでの混乱は増大します。一方、②ハーフを10分程度先出しさせた場合ですが、分離合流ポイントにおける交錯は、計算上はほぼ皆無となります。

ただし、どちらを先行させたにせよ③10分間分離スタートの場合、2km地点付近で先発種目の遅いランナーと後発種目のトップランナーとの間で「追い越し」が発生します。④20分間隔としても4km地点で追い越しは発生します。（つづく）

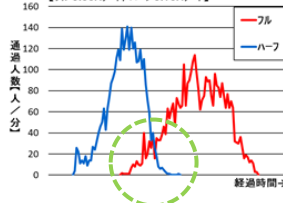
■ハーフ第1折返しポイントでの「交錯」想定

現状（2016大会実績）ハーフ78.4km、フル17.6km



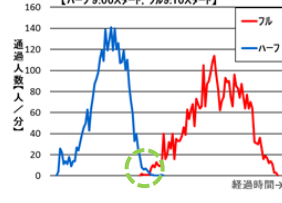
① 2017大会ケース1 フル10分先発

【フル9:00スタート、ハーフ9:10スタート】



② 2017大会ケースその2 ハーフ10分先発

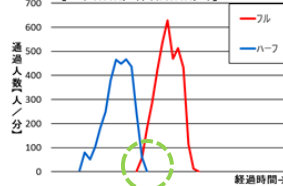
【ハーフ9:00スタート、フル9:10スタート】



■フル トップランナーの「追越し」想定

③ 2017大会 2km地点 ハーフ10分先発

【ハーフ9:00スタート、フル9:10スタート】



④ 2017大会 4km地点 ハーフ20分先発

【ハーフ9:00スタート、フル9:20スタート】



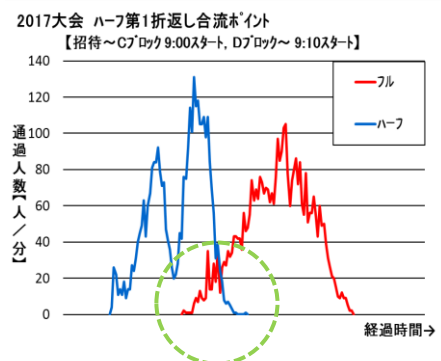
～ 第7回 制限時間が延長できたとして、それをどこに配分するか？（その3）～

次に第6回で抽出したB方式「種目が混在したままブロック毎にスタート時刻を分けるウェーブスタート」を考察してみたいと思います。

種目が混在している状態、即ち現状のフル・ハーフ同時スタート方式は変えず、招待選手&ABCブロックで第1グループを形成し午前9時に第一号砲、続いてDEFGブロックで第2グループを形成し午前9時10分に第2号砲とした場合、どのような現象が起こるのか？

この場合は、先発グループが後発グループに対し各関門で10分間のマージンが得られることから不公平感が生じます。また、スタート直後のフルとハーフのスピードの違いによる「走りにくい」という多くのご指摘に対しても、その改善策とはなりません。加えて8.4km地点の合流ポイントでも、右図のとおり現状よりも「交錯」が増大するものと想定されることから、B方式実施の優位点を見いだすことはできません。

■ B方式(ウェーブスタート)の考察



何となく改善の方向性は見えてきたような気もしますが…この辺は拙速とならないよう慎重に進めてまいります。集客面だけを考えると「延長が叶った時間」を制限時間の延長に投入した方が得策なのですが…第一優先すべきはランナーの安全確保。そうした視点で今後、検討を深めてまいります（そもそも「延長が叶った時間」というものが、現状では存在しておりませんので…今後の協議進展をお待ちください）。

何れにしても、その「延長が叶った時間」の分量の大小によって、方針は大きく変わるものと思われますが、その際の検討の前提条件として一つだけ言えることは、種目別スタートにせよウェーブスタートにせよ、スタートの間隔を10分超とすることは、（現段階では）現実的ではないということです。

スタート直後は市街地の中心部を走ることにになりますので、一刻も早くランナーを通過させ、非日常空間を日常空間へと素早く引き戻す必要があるからです（※第一陣スタート後、第2陣到達まで20分近くランナーが通らない&クルマも通行できないという状態を作ってしまうことについて、現状において市民理解を得るのは困難です）。

…ということで我々、これまで3回にわたり長々と書き込んできたような議論をこれからも継続してまいります。そしてその結果は…たぶん1月の「実施要項」の発表まで時間を要するものと考えています。産みの苦しみです、申し訳ありません。

～ 第8回 「適正」なスタート空間の創出 ～

今回のスタート地点の状況については、先の「開催状況」の第4回に詳述したとおりですが、大きく4点あった問題点を再掲すると、

- ①スタート直前になって、前方からランナーがどんどん差し込んでくる
- ②騒然として場内放送が聞きとりにくい
- ③号砲後、ランナーが一斉に各ブロックの出口方向に移動～合流部が混乱
- ④コーンバーを間引いた結果、一部のランナーが設定ブロックを無視

といった状況となり、極めて不公平感に満ちあふれた空間となりました。

アンケートなどを見ても、函館マラソンに対する苦言の多くは、このスタートの「混乱」に起因するものであることから、この問題への的確な対応は不可欠です。

このため2017大会開催に向けては、函館マラソンの競技面を所管する函館マラソン運営委員会「競技部会」において、陸上関係者を中心に対処策が構築されつつあります。

まず①について。整列している前方から並んでいなかった人が差し込んでくるというのは、何のことはない「割り込み」のことです。競技直前の緊張感に満ちた状況ですから「少しでも有利に」とか「自分一人ぐらい横入りしても大丈夫だろう」といった魔が差した状況なのでしょうが、寒い中きちんと並んでいた人からすれば、これは許せません。よってここは性善説ではなく公平性の確保を最優先し、ブロックの先頭部に担当者を複数配置し、「割り込み」を厳正に排除します。

次に②について。騒然として場内放送が聞き取りにくいのは放送機材の性能が若干劣っていたこともあるほか、演出内容も若干大人しかったのかなと考えています。よってここはプロの音響屋さんにお任せして野外ライブ的な…いえいえ、きちんと「聞こえる」機材を投入するのはもちろん、全国の大規模マラソンのスタート状況などを参考としつつも、函館オリジナルのスタート演出を考えたいと思います。

次に③について。これも誘導體制に問題があったものと考えています。ブロック毎のスタートで、各々の出口がピタリと動かなければ「トコロテン」は出てきませんので、そうした誘導を徹底するほか、「聞こえる」場内アナウンスで、その周知に努めます。

結びに④について。物理的な遮蔽物がなくてもヒトはルールを守って行動するだろう…といった性善説に基づく予断は、このたびの経験則を通じて持たないことにいたしました。この辺はルール無視を呼び込んでしまう素地をなくすことに全力を尽くします。よってロープと杭で完全に遮蔽します。スタッフも1レーンにつき10名程度配置します。

～ 第9回 「安全快適」なエイドステーションの創出 ～

エイドステーションが「安全快適」であらんことを希求しなければならないというのは、何とも嘆かわしく、悲しい状況なのでありますが…次回の函館マラソンは、その「安全快適」なエイドステーションを創出すべく全力を尽くします。

まずはエイドステーションでのランナー輻輳の低減など「安全策」について。

- ・対策1：フルとハーフの合流ポイントである湯の川ハーフ折返し地点の傍に設置した第4エイドについては、フル専用エイドを追加（新設）する、あるいはエイドステーション自体の延長を伸ばす等の対策を講じます
- ・対策2：同じくフルとハーフが混在する第5～第6～第7エイドについても、エイドステーション自体の延長を伸ばす等の対策を講じます（※第1エイドのように左右分離配置を検討しましたが、補給ラインと安全確保の問題から断念しました）
- ・対策3：水を確実に提供するため、現状、ペットボトル対応としている第2、第3、第8～第11エイドについては補給ラインを複数確保します
- ・対策4：（現段階では）アクエリアスを全エイドステーションに配備したいと考えています（※ただしゴール後の水分供給については、競技場内の芝生保全との兼ね合いからスポーツドリンクではなく、引き続きペットボトル水の供給とします）
- ・対策5：フル・ハーフ同時開催による参加者倍増への対策として、7千人近い参加者が一気に通過する第1エイドでは、試験的にプラスチック段ボールを活用した紙コップの2段・3段に重ね給水を実施しました。この結果、ランナーには滞りなく給水できたほか、なんと強風でも紙コップが飛ばされないという副次効果も確認できました。次回はもちろん、全てのエイドステーションで当該手法を導入します
- ・対策6：安全性向上のためスタート前給水を実施します

次に、個々のエイドステーションの良好な空間づくりに向けた「快適化策」について

- ・対策1：フード摂取後の水分補給に対応するため、提供方法や順序などを再構築します（※現状：アクエリアス → 水 → スポンジ → フード）
- ・対策2：レース終盤36km付近の第10エイド（緑の島）に集中していたフードを分散し、30km過ぎの第8エイドで地元スイーツ（チーズオムレット、カステラ饅頭）を提供することで、既存のコカ・コーラとともに「ともえ大橋」の走行に向けたエネルギー補給に資することとします
- ・対策3：エイドステーションでのフードの「品切れ」を排除します
- ・対策4：既存の特色あるフードに加えて新たな地産フードの供給先を模索し、食を通じたさらなる魅力向上に努めます

…ということで、トライアンドエラーをもって一歩ずつ前進してまいります。

～ 第10回 「風対策」 ～

さあ、いよいよ本丸「風対策」突入です。今、考えていることをダーっと列記しますね。

- ・キロメートル表示板（1km毎）：とにかく「あの風」が再度襲来したとしても、何があってもコース脇に立ててみせます。最悪の場合は電柱などに括り付けることとします。ただし、その際は既存電柱の配置状況により正確な1kmポイントとならないことも想定されますが（誤差範囲は最大で20mほど）、これは立てないよりもマシということでご容赦ください
- ・各種表示板（トイレ、更衣室、荷物預かり所…など）：これも同じく、何があっても最寄りのわかりやすい場所に配置します。電柱がなければスタッフが手で支えます
- ・救護所：「あの風」でテントが飛ばされそうになるなど厳しい状況に曝されたことから、テント設営方式ではなく大型の路線バスを借用し、車内レイアウトを工夫し救護所として活用します。日本初？の「モバイル救護所」の誕生です。
- ・荷物預かり所：降雨による荷物の汚損を防止するため、荷物ラックをシートで養生します。また、要望が多かった荷物袋についても（少しだけ）大きくします。なお大型荷物については、今回、有料で承っておりましたが、アナウンス不足もあり周知が図られていない状況も見受けられましたので、今後、周知徹底に努めます。あ、この場でもお知らせいたしますが、大型荷物については次回も荷物預かり所の特設コーナーにおいて一個600円（予定）にてお預かりいたします。
- ・トイレ：今回、「あの風」で設置できなかった公衆・仮設トイレおよび臨時借用した商業施設などの民間トイレの案内看板を確実に設置し、現実的な配置数とランナーの「トイレが少ない」という印象の乖離を是正します。また「コースから離れている場所もあった」という指摘を踏まえ、仮設トイレの設置については全般的に見直し、設置場所や設置数を、巨費を投じて大幅に増やします。
- ・おもてなし広場：今回は、土曜日のお昼過ぎから参加記念品を引き渡したいと考えておりますので、参加者の皆様には記念品の受領後にゆっくりと会場の雰囲気を楽しんでいただくため、「おもてなし広場」も開催日の前日からまったりと運営したいところですが…。今回、おもてなし広場は、「あの風」の影響を受けて開催中止を判断する一歩手前までに至りました。大型テントは風雨の影響を受けやすく、開催中止とした場合のリスクも大きいことから、風対策が構築できなければ実施しません。ただし、スポンサーブースや振る舞い会場などについては、たとえ小規模となっても設置したいと思っております。

～ 第 11 回 スムーズな移動経路の確保について ～

続いて、会場までの移動手段などに関する検討状況をお知らせします。

函館マラソンのスタート・ゴール地点は、函館の市街地中心部に位置する千代台公園であり、駐車場が僅少であることからマラソン参加者の駐車需要には対応できない状況にあります。

このため参加者の皆様には、公共の交通機関のご利用や徒歩による移動をご案内してきたところですが、往路に関しては、

- ・路面電車：朝 6 時半から増発し、5 分間隔で運行して対応いたしましたが、当日は予想に反して 6 時半から 7 時までは利用が低調であった一方、7 時を過ぎるとランナーが殺到し、とりわけ函館駅前で満車になり、続く松風町からは乗車できない状況がしばらく続きました
→このような状況を踏まえ、6 時半からの増車に充てたりソースを 7 時台に振り分けるなど、増加する需要に応えられるよう工夫します
 - ・函館バス：宿泊施設が集積する函館駅前や湯の川地区から千代台公園までを直結する路線バスの便数が少ないことから、往路については利用が低調だったようです
→路線バスの案内資料を作成し、大会 w e b サイトや宿泊施設で周知します
 - ・タクシー：函館駅前から距離約 2 km、所要時間 5 分ほど、料金（小型車）は 1 0 0 0 円前後であることを周知するなど交通需要の分散化を促進します
 - ・徒歩：函館駅前から距離約 2 km、所要時間 3 0 分程度と、徒歩圏内であることを周知し、交通手段の選択肢を広げます
- といった対策を構築し、この周知につとめます。

一方、復路についてはハーフマラソン終了後 1 2 時 5 0 分頃まで、路面電車とバスの路線を横切る形でランナーが激走しており通行止めとなっている関係上、

- ・路面電車：1 3 時頃まで函館駅前～五稜郭公園前を運休（その間、連絡バスを運行）
- ・函館バス：1 3 時頃まで各路線を運休（その間、連絡バスを運行）

していましたが、当日は案内体制が不十分であったことから混乱が生じ、参加者の皆様にはご不便をおかけいたしました。

→このような状況を踏まえ、とりわけ復路については各種インフォメーション体制の強化（交通案内人の増強）をもって、対応に努めます。

また、駅前方面への（マラソンコースを横切らないルートでの）徒歩移動の促進に向けた案内看板を設置し、交通需要の低減に努めます。

～ 第12回 各種制限事項について考えてみる（その1） ～

参加者アンケートなどを通じ、函館マラソン参加時における仮装や音楽プレイヤーの規制などについて、多くのご意見をいただきました。

「仮装等の禁止について」

着ぐるみや覆面等、仮装しての出場は禁止する。

「助力の禁止」

（前略）携帯電話等の通信機器や、音楽プレイヤー等の持ち込みならびに使用しての走行は禁止する。

これは2016函館マラソンの競技注意事項を抜粋したのですが、内容的には（公益財団法人）日本陸上競技連盟競技規則に準じたものであり、マラソン競技を実施するうえではごく一般的なものです（ただし、これらの注意事項を函館マラソンのように個々具体的に明示しているのか否かは別として）。

函館市において1991年に初開催されたマラソン大会は、以後、四半世紀を超える開催実績をもってこのたびのフル・ハーフ同時開催に至ったわけですが、実はこの注意事項、我が国における携帯電話の普及率の高まりと連動してでしょうか、「助力の禁止」部分の携帯電話等の関連記述については08年大会に加筆されたものです。また、「仮装等の禁止について」は09年大会に加筆され、各々今日まで至っております。

これらの規制について、ランナー目線からのご意見を直接いただくため、過日、NHK-BS1の番組「ラン×スマ 街の風になれ」で最終制限ランナーとして紹介された村屋会長をはじめとする「函館走ろう会」の皆さんと意見交換会を行いました。その結果、仮装については否定的だった我々事務局は、そのランナー目線からの意外な一言で、目から鱗が落ちました。

「仮装はね、沿道で応援する人の客寄せにもなるからね」

「応援が多ければランナーも喜ぶでしょ」

…なるほど。

この結論は、来年1月の実行委員会で17大会の「実施要項」を決定した後に、あらためてお知らせいたします。ただ、物事には限度がありますので、我々としては不正防止（顔が全面的に隠れ本人確認ができないもの）や安全確保（左右に張り出して他者に迷惑がかかるものや突起物などで他のランナーを傷つける恐れのあるものなど）、さらには競技性の維持に関係するものといった視点で、運営委員会の競技部会や実行委員会に諮ってまいりたいと考えております。（つづく）

～ 第13回 各種制限事項について考えてみる（その2） ～

続いては携帯電話や音楽プレーヤーの使用について。

- ・ レース中の持ち物について
 - ランナーの方はできる限り、以下の持ち物（※スマートフォン、または、携帯電話）を携帯してレースに参加してください。
- ・ 禁止事項
 - （前略）他のランナーの妨げになるような大音量を発生する器具の使用

上記は、2016東京マラソンの「参加のご案内」に記載のある事項です。

…なるほど。

ここからは、防災対策としての携帯電話の所持奨励と、他のランナーの妨げとならない程度の音楽プレーヤーの使用については可能であると見てとれます。

ただし、同禁止事項には「（前略）コース上で、踊り、演技、演奏などをしたり、立ち止まったりするなどの遅延行為」、「主催者が大会参加にふさわしくないと判断したもの」という記載も盛り込まれています。要するに携帯電話の所持は奨励するがコース上に立ち止まってレース風景を撮影するのは邪魔だからダメだろ…であり、さらに、後段の記述は禁止事項の記載の有無にかかわらず主催者の裁量をもって個別判断するということで、微細な事項までは規定しないけど、そんなのCOMMON・センスで対応するから…ということだと思います。

東京マラソンも、函館マラソンと同様に競技規則として「（前略）日本陸上競技連盟競技規則および本大会規定によります。」と明記されています。日本陸連の競技規則では携帯電話の所持と使用は「許可しない」とある一方、同大会規定では携帯電話は「携帯してレースに参加してください」とあり、一瞬、不整合？かと思いましたが、この解釈として、同じく日本陸連が2013年に公表した「市民マラソン・ロードレース運営ガイドライン」（※以下に抽出）を見ると、そこに齟齬がないことがわかりました。

- （5）仮装・電子機器利用の是非
- 陸上競技のルールでは、仮装や電子機器の利用はできないことになっていますが、大会主催者の判断で一部認められる大会もあります。ただし、他のランナーに迷惑をかけるような利用は慎むよう周知徹底します

この結論も、来年1月の実行委員会で17大会の「実施要項」を決定した後に、「仮装」などに関する事項とあわせて、あらためてお知らせいたします。

～ 第14回 コースについて ～

ランナーへのアンケート結果などをみると、「コースの幅が狭い」というご指摘を数多くいただいております。「狭い」を解消するためには「広い」幹線道路を巡るコースを設定するのが一番なのでしょうが、それが難しいということは、これまでこの散文シリーズで何度も触れてまいりました。要するに、それができないからこそ長く函館ではフルマラソンができなかった…ということです。

ただし、2016函館マラソンにご参加いただいたランナーが、「狭い」という評価を下しているというのは「事実」であり看過できません。

そこで、この解決に向けた一助とするため、本稿の第5回から第7回で触れたとおり、種目別分離スタートなどスタートの波動を分散する手法の導入を検討しているほか、抜本策としてコースの物理的な拡張、即ちマラソンで使用する車線の拡大を目指し、関係機関との協議を進めています。

また、コースの関連事項として、函館マラソンでは、皆さんの大切な記録を確実に保全するため、少なからぬ費用を投入してラップタイムを計測してまいりましたが、17大会では参加者から要望が多かった「5km毎ラップタイム」を計測する予定です。

16大会では、フル参加者のラップタイムは5km→10km→20km→30km→40kmのデータを記録証に刻んでおりましたが、次回はそこに15km・25km・35kmラップも加わりますので、ランナーの皆様にとっては「走り」の目安としてご活用いただきたいと考えております（※ハーフも従前どおり5km毎のラップを計測します）。

なお、函館マラソンの最大の難関である「ともえ大橋」の往復ですが、17年大会も引き続き皆さんをお迎えいたします。潮風を浴びる「漁火通」などを含め、全般を通してタフなコースであるのに変わりはなく、途中で

「たはむれに母を背負ひて そのあまり軽きに泣きて 三步あゆまず」（※1）ならぬ
「たたずんで脚をさすりて そのあまり重きに泣きて 三步あゆまず」となりそうですね。

ただ、苦しくても沿道のそこかしこで、例えばレース中盤をなす青柳町あたりでは、

「函館の青柳町こそかなしけれ 友の恋歌 矢車の花」（※2）ならぬ

「函館の青柳町こそいとしけれ 友の声援 手作りの旗」となるよう、市民の総力をあげて皆さんを応援したいと考えておりますので、とりわけフルにご参加いただく皆様には、今から「日本一過酷なファンラン」への備えをよろしくお願いいたします。

※1・2 参考：ともに石川啄木「一握の砂」より

～ 第15回 「足らざる」を撲滅したい ～

今回は少しまじめに…マラソンで提供するフードについて考えてみたいと思います。

そもそもマラソンのエイドステーションでフードを提供する必要があるのか？地域色を打ち出した多彩なフード構成を競う必要があるのか？マラソンの理念・本質からしてどうなのか？サービスは最低限として参加費を抑えた方が良いのではないのか？…この辺、10人に訊けば10通りの答えがあるのではないかと思います。

そのような中、フルマラソンとしては第1回目となった昨年の函館マラソンでは、フード提供の前例もノウハウも皆無であったことから、昨年の今頃は「何を」、「どのように」提供するか？について、皆でしばし悩んだことを記憶しています。

結論は…折角だから函館の地域色を反映させた多彩なフードを提供して、ランナーの皆さんに楽しんでいただく…となりました。函館は「食」が魅力のまちであり、それが支えとなって「魅力的な市町村」ランキングにおいて、全国1千の自治体の中で何度もナンバーワンの栄誉に浴するような、そのような希有な街だからです。

それゆえに我々、街の魅力である豊かな「食」をマラソンの中に凝縮させるため、まずは「品揃え」の充実には奔走し、そうした活動を通じてマラソンのフードとしてはたぶん異例であろう海鮮丼「漁り火がごめ丼」や「冷やし塩ラーメン」、函館および道南の銘菓「チーズオムレット」、「カステラ饅頭」、「丸缶羊かん」、さらに「夕張メロン」、加えてゴール後の振る舞いとして「函館牛乳」、「じゃがバター」、「イカめし」など地域色豊かなフードのラインナップが整い、そして当日を迎えたわけであります。

なお、これら地域を代表する食を提供するにあたっては、それが皆さんから頂戴する参加費のアップに繋がることのないように…多くの企業やお店のご主人から「ご提供」いただきました。要するに多くの皆さんから「心意気」を頂戴したのであります。

ただし、問題はこの場で何度も詳述してきたとおり、そこに「不足」が生じたこと。

16大会は、地域を代表する食の「種類」を整えましたが、17大会に向けては、その「総量」の確保に全力を傾注し、足らざる状況を撲滅したいと考えております。また、新たな挑戦も進めてまいります（次回以降、その詳細をお知らせいたします）。

AID FOOD&DRINK

エイドフード&ドリンク

多くの協賛企業の皆さまから、ランナーの皆さまへご提供いただきました！

| | | | | | | |
|---|---|--|---|--|--|---|
| <div>【第7エイド】</div> <div>五郎手屋本舗</div> <div>ミニ丸缶羊かん</div> <div></div> | <div>【第8エイド】</div> <div>北海道コカ・コーラ飲料株式会社</div> <div>コカ・コーラ</div> <div></div> | <div>【第10エイド】</div> <div>千秋庵総本家</div> <div>カステラ饅頭 函館散歩</div> <div></div> | <div>【第10エイド】</div> <div>中川青果</div> <div>夕張メロン、 バナナ、ミニトマト (バナナとミニトマトは第7エイドでも)</div> <div></div> | <div>【第10エイド】</div> <div>ベイトリー スナックフーズ</div> <div>チーズオムレット</div> <div></div> | <div>【第10エイド】</div> <div>函館市協同組合連合会</div> <div>漁り火がごめ丼</div> <div></div> | <div>【第10エイド】</div> <div>らあめん無限、TEPPEN らあめんめんざち、出口製麺</div> <div>はこだて冷やし 塩ラーメン(ジュレタイプ)</div> <div></div> |
|---|---|--|---|--|--|---|

●函館牛乳
函館牛乳

●函館農水産物
ブランド推進協議会
じゃがバター

●プロテック
イカめし

おもてなしイベントで
ランナーに振る舞い！

※数量限定 ※写真はイメージです

16大会のフード等の概要 (2016 函館マラソン開催記念タブロイド紙から抜粋)

～ 第16回 フード提供の充実（その1） ～

フードを提供するエイドステーションや「おもてなし広場」での振る舞いの現場から「数量限定」の文字を撲滅したい。かといって「数量無限」などと、出来もしないことは言いません。

ではどうする？

まず、エイドステーションでの提供品目については「16大会開催状況」でも触れてきたとおり、提供数量を大幅に増やします。第1回の実績を踏まえ必要数は把握できましたので、今回は「補給食」として必要な方にはきちんとはこだての「食」を提供できるよう、関係者の皆様と綿密に打ち合わせのうえ準備いたします。海鮮丼も塩ラーメンも、「足らざる」状況を撲滅したいと思っています。

次に、おもてなし広場。

ハーフとフルではゴール時刻が大きく異なることから、おもてなし広場での振る舞いは難しいのですが、アンケートをみると「事前にチケットを配布して皆に行き渡るように」という具体的なご提案や「何度も列に並ぶ人がいた！」といった現場の状況なども寄せられております。

ただし「おもてなしチケット」を事前配布したとしても、それを所持したまま出走するランナーは少ないですよね？走っているうちになくしそうだし、それに「（なくした、忘れてきたから）再発行して！」などと言われても困ってしまいます。一方で「私は着替えてからゆっくりと食べたいのよ」という方もいらっしゃると思います。

さあどうしたものか…。

逡巡しておりましたが、我が函館マラソンのスポンサー・ミズノさんのショップ「NOHARA（原宿）」を先日訪問した際、その解決策を店内の壁面で発見！そこにはお客様



参考：戸田マラソン in 彩湖ゼッケン

が持ち寄った全国のマラソン大会のゼッケンがところ狭しと掲げられておりましたが、よくみるとゼッケンの一部にミシン目が入っていて、それが「引換券」となっていたり、ゼッケンに「スूप引換」欄があってスタンプが押印されているものなどもありました（※他大会の事例を勝手に参照しておりますが、ま、戸田市役所に友達が居るので良しとしましょう）。

ということで、当日忘れるべくもないゼッケンに何らかの工夫をして、皆様には確実に はこだての食を楽しんでいただきますね。なお具体的な提供品目ですが（…つづく）

～ 第17回 フード提供の充実（その2） ～

引き続きゴール後の「おもてなし広場」でのフード提供のお話です。「何を」、「どのぐらい」提供するのかという気になる核心部をお知らせいたします。

まず16大会でも大好評を博した「函館牛乳」は、引き続き参加者全員に提供できる予定です。また、争奪戦という申し訳ない事態を招いてしまった「じゃがバター」については倍増の1千個提供、同じく「いかめし」については2千個（前は6百個）と3倍超規模を提供できるよう、ともに関係皆様との協議が整っております（※ただし「いかめし」については若干の懸念がありまして…昨今イカ漁が芳しくないことから「冗談抜きで7月アタマにイカめし2千個確保できるだろうか…」と、この場でおなじみの函館マラソン・コールドスポンサー企業の新社長氏が心配しておりました。この辺、状況に応じて品目変更もあり得るということで、あらかじめご了承ください）。あらかじめご了承ください。

また、ハーフ時代にはおなじみだった「お餅」が北海道米販売拡大委員会のご厚意を得て17大会で復活します。使用するもち米は道南の八雲町で生産された「風の子もち」という品種で、白度に優れ、もちにしたときのきめ細かさ、粘り、コシが自慢です。提供数は…数千個レベルとなるよう勝手に「希望」し、調整作業を進めているところです。加えて、道南を代表するコメ「ふっくりんこ」のおにぎりを千個単位で用意するほか、道南産の「肉」関係で新たな品目が加わらないものかと思案中です。

と、ここで気をつけてくださいね。ゼッケンの「おもてなしフード」欄は1コマしか設定いたしません、即ち上記のフードから「一品」を選択していただくことになります（一つの品目を8千人規模の参加者全員に提供するというのは難易度がかなり高いのでありました。ご理解ください）。また、先着順で提供品は順になくなっていきますので、これもご理解願います。なお、提供時にはフルとハーフを別ラインで受け付けることとし、提供個数も概ね同数となるよう調整したいと思っております。「先にハーフの人が全部食べちゃった」などと言われるのは、お互い不幸ですから…ね。

え、やけに細かいって？いえいえいえ…何事も公平に…それが16大会を通じて得られた貴重な経験則ですから、この辺は慎重にまいります。

なお、ゴール後に「味噌汁」を全員に提供できないものかと検討中です。レース後は塩分補給が重要ですから…実はこのアイディア、この場に何度も登場している道内在住Sさんから頂戴したのでありました。「全国のマラソンをいろいろ回りましたが、とにかくゴール後は味噌汁があれば一番嬉しい」と。どうせなら函館特産「がごめ昆布」入りにしようかな…（※味噌汁提供の検討状況が面白くなってきました…2～3回分原稿になりそうですので、概要が固まり次第、別シリーズ？でお知らせいたしますね）。

～ 第18回 で、夕張メロンはどうなった？ ～

一昨年、我々の前に彗星の如くあらわれた「くだもの社長」。その強烈なキャラクターと振る舞いは、とりわけ私にとってはネタの宝庫であり、それゆえこの場で何度も紹介させていただきましたので、ご愛読？いただいている方にとっては会わずとも氏がどのような方かは何となくイメージできるのではないのでしょうか。

とはいっても事前情報が全くない方にとっては「何のことやら？」となってしまいますので、これまでの氏と我々の壮絶な関わりを簡単にまとめてみますね。

- ・ 15年1月頃：「くだもの社長」事務局にあらわる。氏から我々に対し函館マラソンへの期待と苦言がガンガン寄せられる。しかし防戦一方の我々が放った苦し紛れの一言で形勢逆転、氏、本業で取り扱うバナナとミニトマトと夕張メロンの無償提供を約束させられてしまう
- ・ 16年5月頃：氏、夕張メロンがフルの参加者にだけにあたる（※北海道弁。「配られる」の意）ことに「納得できない」と主張。結果、提供数量が大幅増加～ゴール後、数量限定ながらハーフ参加者にも振る舞われることに
- ・ 16年6月26日：氏、函館マラソン・フルの部に参加、自己ベストを記録
- ・ 16年7月：氏、事務局に対し函館マラソンの体験談を大いに語るも来年のくだもの提供については「白紙」と、つれない返事が…

ということで、氏には文字通り物心両面のご協力いただいておりますが、次回大会への協賛については逡巡されているご様子でした。そうしたなか、先日、久しぶりにお電話を頂戴したのであります。

くだもの社長：「あのさ、オレこのまえ大阪マラソンに参加してきたんだけどさ」、「当日さ、荷物を預けようと並んでたら『あれ、もしかしてくだもの社長じゃないですか？』って地元のランナーに声をかけられてさ」、「訊くとその人、今回の函館マラソンに出た人でさ」、「函館マラソンwebで『くだもの社長』のイラストや記事を見てオレのことかなり印象に残ってたんだとさ」、「で、イラストとそっくりな人間が目の前に居たんで試しに声をかけてみたんだって」、「有名にしてもらったからには（メロンとかの協賛）ヤメられないわね」



事務局注：
このイラスト、確かにご本人そっくりです！

事務局：「あ…え！（絶句）いいんですか…ありがとうございます！（その大阪のランナーさんありがとう！あなたのおかげです。思い当たるフシのある人はご一報ください。17大会の当日、会場でw私から何かが「あたり」ますので）」

～ 第19回 スポンサー企業、概ね固まる！ ～

マラソンの開催には多額の費用を要することについては、この場でも何度か触れてまいりました。本当は皆さんから頂戴する参加費だけで開催できるというのが理想なのでしょうが、現実的にはそうした事例は少ないようです（というか皆無かも？）。

函館マラソンの場合で申しあげますと、億単位の開催費用は、「参加料」と行政の「補助金（負担金）」とスポンサー企業からの「協賛金」などで賄われています。

その辺の具体的な数字として、このたび「2016 函館マラソン」の収支がまとまりましたので、折角ですから概要をお知らせいたしますね。

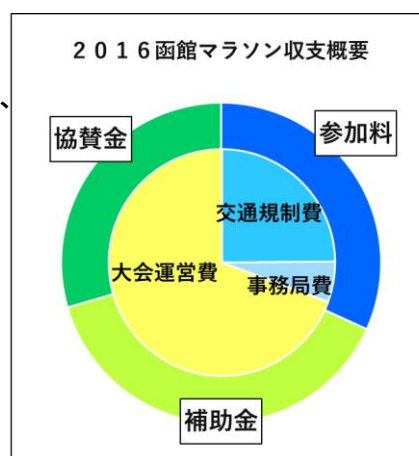
事業費は1億7千万円規模に及びますが、内訳を見ると、

- ・警備や交通規制など「交通規制経費」が約4千万円
 - ・事務局運営経費など「事務局費」が約1千万円
 - ・競技運営や医療救護、広報、さらには参加者記念品代などの「大会運営費」が約1億2千万円
- となっています。

対する収入ですが、

- ・皆さんから頂戴する「参加料」が約5千5百万円
- ・行政などからの「補助金（負担金）」が約6千7百万円
- ・そしてスポンサー企業からの「協賛金」が約5千万円（※この金額にはフードや各種アイテム提供など約1千万円相当に及ぶ現物協賛分は含まれておりません）

という内容で構成されており、その比率は概ね1：1：1となっております。



このように、マラソン開催に係る収支を俯瞰するとき、函館マラソンは、少なからぬ費用をかけて全国各地から駆けつけていただくランナーの皆様の熱意と、地域の理解、そして多くのスポンサー企業（※当ホームページにバナー掲示のある大口スポンサーを含め計210社！）からのご支援をいただかなければ開催できないんだよな…と、あらためて実感した次第。関係するすべての皆様に心よりの感謝を申しあげます。

本当に有難いことに、新年を迎え、「2017 函館マラソン」を支えていただくスポンサー企業が概ね固まりました。なんと昨年大会をスポンサーいただいたバナー掲示企業の全社から継続してご協賛いただけることとなりましたほか、新たな企業も加わりました。また、現在交渉中のお話も複数件いただいております（詳しくは1月18日にリニューアルする当HPの企業バナーをご覧ください。できればそのままクリックして、リンク先の企業情報などをしみじみ眺め、意気に感じていただければ幸いです）。

ということで2017 函館マラソンの開催に向けては…あとは皆さんからの申込みを待つみの状況です！（申込開始日時などは1月18日、当HPにてお知らせいたします）

～ 第20回 2017大会 実施要項決定！ ～

これまでのハーフマラソンに加え、新たにフルマラソンを同時開催するスタイルで実施した昨年大会ですが、この間「2016函館マラソン実施状況」でも書き連ねてきたとおり、当日は強風に曝され、それに我々運営側の不手際なども重なって、結果、ランナーの皆様には本当にご迷惑をおかけいたしました。

以来、我々は「あの日」諸々起きた事象をまずは冷静に受け止め、整理し、改善に向けた方向性を打ち出し、そのうえで関係する多くの皆さんとの協議を幾度も重ねてまいりました。より一層の高みを目指し、アツい思いでチューニングしてきた各種の改善策などについては、確実に次回大会に取り込んでまいります。

このような中、本日、函館マラソン実行委員会が開催され、まずは2017大会の「実施要項」がめでたく承認に至りました（※詳しくは1月18日付の新着情報「2017函館マラソン 実施要項決定！」と、文中リンクの「2017函館マラソン実施要項」をご覧ください）。16大会からの変更点や改善策については、追って当ホームページ上で（話が長い私ではなく、若いスタッフが完結明瞭に）詳しく説明してまいります。

私からはポイントだけ…まずは「実施要項」について、16大会からの大きな変更点を説明させていただくと…近い将来の1万人マラソン化に向けて、17年大会では

- ・スタート時の混雑低減に向け、ハーフ先行で10分間の時差式スタートを導入
→スタートの混雑とスタート後のコース狭隘が大幅に解消されます
- ・フルの参加資格は5時間（今回「は」変更なし）、ハーフは3時間（10分延長）

とします。

また、エントリー終了後にご案内する「競技注意事項」の中には、

- ・服装は、顔全体を覆ったり、他のランナーや応援者を不快にさせたり、危険がおよぶものなどについては認めないこと
- ・携帯電話等の通信機器については、災害や緊急時に対応するため所持してもよいことなどを盛り込む予定です。

もちろんこれまで「準備状況」で書き連ねてきた「適正なスタート空間の創出」をはじめ、エイドステーション、風対策、移動経路、コース関係事項、各種要望、そしてフードの充実などについては、当然事項として17大会で実現させてまいります。

次回の函館マラソンは、確実に「よき大会」へと変貌を遂げたいと、そのように考えています。17大会に向けて歩みを進めた函館マラソン、本年7月2日のその日まで準備に全力を尽くしてまいりますので、ランナーの皆様方におかれましては末永くおつきあいをいただきますよう、どうかよろしくお願いいたします。

～ 結びに ～

いつも長いので…ひとつだけ詠んで？結びに変えますね。

「友がみな われよりはやく見ゆる日よ 靴を買いきて 風としたしむ」（※１）

この意は、

- ・ 次回の函館マラソンへの参加を希望されるランナーの皆様は
- ・ 函館で悔しい思いをしないよう
- ・ 今すぐ函館マラソンのスポンサーたるミズノ社のランニングシューズを新調し
- ・ 浜辺の強風にうたれるなどして
- ・ 日々の鍛錬に勤しんでください

というものです。

啄木が愛でた街、そして「魅力ある市町村」ランキングで３年連続日本一（※２）の栄誉に浴する街・函館。そんな街で開催されるマラソンが「日本一じゃないわけがない！」ぐらいの勢いで、我々一同、皆さんの走りを支える美しくもタフな舞台を用意しております。

ということで…

エントリーは２月１３日（月）の午後９時からです。

皆様お忘れなきように！そして、よろしく願いいたします。

（文責）

函館マラソン大会実行員会事務局課長

（函館市教育委員会生涯学習部フルマラソン担当課長）

池田敏春

※１ 参考：石川啄木「一握の砂」：友がみなわれよりえらく見ゆる日よ 花を買ひきて 妻としたしむ
（この間、勢いで啄木の歌をもじってしまって…ご覧いただいた皆様、申し訳ありませんでした、謹んでお詫び申し上げます。ただしこの原稿、事前に著名な啄木研究家であり函館マラソンのスポンサー企業の役員であり私のモト上司でもある御仁に「どんなものですかね？」と、恐る恐る確認しておりまして…櫻井氏からは「おもしろいわ。原典も書いてあるしいんじゃないの」と、お墨付きをいただいておりますので申し添えます…あっ名前書いてしまった！）

※２ 「地域ブランド調査」（ブランド総合研究所）